

■第二次新潟市下水道中期ビジョン検討委員会 第5回意見概要

番号	資料ページ タイトル	項目	意見概要	対応案 (①素案に反映 ②実施段階に反映 ③その他)
1	経営方針 下水道事業の現状と課題	「各処理区毎の 道路陥没発生件数」の表	道路陥没の発生要因について分析結果が説明されていないため、今後は維持管理費が増加することの説明に使用するのはどうなのか。	① 陥没発生件数と維持管理費の増加については、明確な関連性が認められないため、表を削除し、文言を修正しました。
2		下水道事業の状況	「不利な地理的特徴」「未普及対策の推進」「老朽化対策の推進」の3つが並記されているが、大きな問題が同時に到来することには繋がらない。 また、「不利な地理的特徴⇒マンホールポンプが多い⇒維持管理費が高い」といった流れは一般の方にはイメージしにくい。	① 3つの問題について今後の取り組むべき課題として各項目ごとに整理しました。また、「地理的特徴」により維持管理費が高くなることについては、その特徴により他の政令市に比べ施設数が多くなることから設備の点検・整備費用が高くなる要因となっているなど、文言を整理しました。
3			今後の展開にPPPが突然出てきており、説明が不足している。メリット・デメリットを整理したうえで、3つの大きな問題がどのように改善されるのかを記載した方が良い。	② 素案において今後の取組み事項として検討することとし、実施段階において、維持管理面での検討を進める中で、メリット・デメリットを整理していきたいと考えています。
4		老朽管延長と老朽主要設備数の 遷移のグラフ	管渠と設備が同じグラフに存在し、わかりにくい。もう少し工夫して分かりやすくした方が良いのではないか。	① 管渠と設備をそれぞれ分けたグラフに変更しました。
5	施策構成 第二次新潟市下水道中期ビジョン	主要施策における 基本方針の順番	基本方針3「環境にやさしく、快適な暮らしを支える下水道」が3番目でも良いのか。とくに、未普及地域の方々が疑問を抱くのではないのか。	③ 基本方針は、上から重要な施策と考えていますが、未普及対策も重要です。市民の理解を得ながら、進めていく施策と考えています。
6	施策1 下水道施設の機能確保と 計画的な改築・更新	維持管理費の 将来予測のグラフ	修繕費について、オレンジ色の部分は将来的には0になるのか。また、いつ頃そうなるのか。最終的に一定値に漸近することが想定されるのであれば、そのようなイメージ図にした方が良い。	① 事後対応の修繕費は「0」にはならないため、維持管理費の将来予測イメージを修正しました。
7		コンクリート防食	コンクリート防食は、今までやってきているか。また、改築・更新の手法として取り入れているか。土木構造物の延命化を図るのであれば取り入れてはどうか。	② 土木構造物については今後点検・調査を行い、コンクリートの腐食やコンクリート防食の劣化が確認された場合、コンクリートの延命化対策を検討します。
8		施設規模の最適化	施設規模の最適化が突然出てくるが、処理場の処理能力が大きいのか。現状の実態が今まで出てきていなかったため、実態が分からない。	① 最適化の意図は施設の統廃合であったため、施設躯体の更新を意味する「施設の再構築」へ標題を修正し、その内容で統廃合を表現しました。
9			トータルコスト削減と記載されており、事業を縮小していくように捉えるおそれがある。誤解を招かないよう丁寧に説明する必要がある。	① トータルコスト削減という文言を、維持管理に要するコストや作業量の効率化へ修正しました。
10		改築更新費のグラフについて	改築・更新費が安くなっていることには、どんな要素が入っているのか。耐用年数を延命化しているのか。単価を安く設定しているのか。左側のグラフから何を行ったため、右側に変化したのかを記載する必要がある。	① スtockマネジメントによる効果として改築・更新事業費が安価になる理由は、適正な維持管理による延命化と、施設の優先順位に基づく効率的な対策の実施によることを追記しました。
11			もっと前から対策が出来なかった理由は何か。先に延ばすことで、将来に大きな支出が発生するおそれはないのか。	① Stockマネジメントという新たに創設された制度により、更新時期を先に延ばすリスクも含めて効率的に下水道事業を運営するため、将来的・長期的な改築需要を踏まえて平準化を図ります。そのための説明が不足していたため、「Stockマネジメント」そのものを説明するスペースを1ページ設け、修正したイメージ図を用いて概要がわかるようにしました。
12	施策2 雨に強い都市づくり	シミュレーションにおける降雨	シミュレーションにおける降雨をどのように設定しているか。また総雨量はどのくらいか。90mm/時間を3時間降らせた場合はより大きな被害が発生する。	③ 中央集中型の1時間あたり50mmの雨の他、既往最大降雨97mm/時間(総降水量265mm)でもシミュレーションを行っています。浸水ハザードマップは、既往最大降雨のシミュレーション結果を表示しています。なお、浸水対策施設は、中央集中型の1時間あたり50mmの雨で、計画を立てています。
13		浸水対策における指標	浸水対策率と都市浸水対策達成率の両方が記載されているが、一般の方にはわかりにくいいため、一つにした方が良いのではないか。また、整備の状況を表した図の見方がわからない。計画と実績がわかるような図にした方が良い。	① 浸水対策率を指標として採用します。整備状況の図は、一般の方でもわかるような図面に変更しました。
14		照査降雨	前回の検討委員会で話のあった照査降雨について、どのように考えているか。	② 照査降雨については、道路冠水など一定の浸水被害を許容するような考えを取り入れ、必要な整備を検討します。
15	施策3 地震・津波対策の推進	施設の耐津波化について	土地改良設計基準(農水省)改定委員会において、東日本大震災の被害結果を踏まえた津波対策方法が追記され、改定される動きがある。今後、施設の耐津波化の検討にあたっては、下水道指針等だけでなく農業用施設の設計基準なども参考にした方が良い。	② 施設の津波対策については、実施段階における下水道に関連する最新の基準や指針を基に対策の可否も含めて検討します。